

単元名 筆者の考えを捉えよう「食感のオノマトペ」 (第1学年) 全4時間計画

単元のねらい

言葉を吟味して選ぶ活動を通して、文章に書かれている筆者の考えを、より実感をもって捉えることができるようにする。

単元構想の意図

本単元では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていくことを目指します。つかむ過程では、自分たちの生活と関わり深い教材文であることに気付かせたり、言語活動についてのモデルを提示して具体的なイメージをつかませたりすることで、学習への興味・関心や見通しをもたせます。追究する過程では、言葉を吟味し選ぶ活動を通して、個で考えたことを明確にしたり対話的にグループや全体で交流したりさせることで、筆者の考えに対する理解を深めていきます。まとめる過程では、学んだことを自覚させ、他の様々な場面で生かしていこうとする意欲を高められるように構成しました。

過程

主な学習活動

学習への興味・関心をもたせるための工夫

題名に着目し、それに関わる具体的な事例を考えさせたり、教師が食感のオノマトペが使われている身近な例を資料として提示したりして、自分たちの生活と関わりが深い学習内容であることに気付かせる。

課題設定の工夫

筆者の考えに対する理解を深めていくことの必要性を感じさせてから、課題を示す。また、身に付けさせたい力を明確に捉えられるようにする。

学習の見通しをもたせるための工夫

「写真や絵の様子を表す言葉を考え伝え合う」という言語活動のゴールのモデルを提示し、課題の解決に向けてのイメージをもたせる。また、そのために必要なことを確認し、学習計画を立てさせる。

本時のめあてに沿った活動にするための工夫

グループで考えた言葉を全体の場で発表する基本的な手順がイメージできるように、教師がモデルを提示する。その際は、手順とともに、生徒個々に考えさせたい観点を具体的に捉えられるようにする。

主体的・対話的な交流の場にするための工夫

各自が選んだ言葉を理由等も踏まえて吟味し、グループで二つに絞り込ませる。さらに、順位付けをさせることで、自分たちの考えの根拠や妥当性についてより深く考えさせる。
発表者には相手意識をもたせたり、聞き手に自分たちの考えとの相違等について投げかけさせたりする。また、聞き手としての意識を高めるために、挙手や発言で意思表示をさせる場面を設けるようにする。

学んだことの一般化

言葉を吟味して選ぶことについてイメージさせるために、教材の内容から離れた教師の体験を、具体例として紹介する。
学んだことと日常生活や他の教科とのつながりに気付けさせ、意識化させる。さらに、活用できる場面を具体的に考えさせ全体で共有することで、学びの広がりを実感させる。

学びの自覚と今後へのつながり

一般化したことを基に再度自分の言葉でまとめさせることで学びを自覚させ、今後の自分の言葉の使い方に対する意識を高めさせる。

つかむ(1)

1. 単元の課題を把握する

- 「食感のオノマトペ」が身近にあるものだとということに気づき、教材文に関心をもつ。
- 課題をつかむ。

筆者の考えに対する理解を深めるために、「オノマトペ・テロップ」を考え伝え合う。

- 言語活動についてイメージをもつ。

2. 課題を追究する

- 教材文に書かれている事例等を整理し、筆者の考えについて実感的に捉えられない点を再確認する。



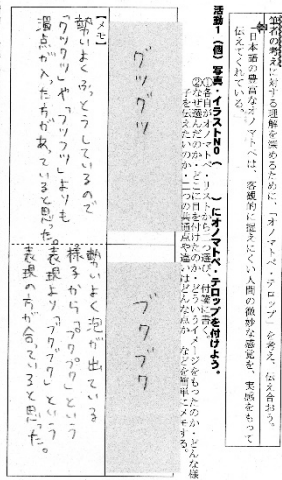
【教師によるモデルの提示】

- 発表の仕方のモデルを見て本時の活動について見通しをもつ。

- 課題解決のために「オノマトペ・テロップ」に取り組み、考えを深める。(個→グループ→全体)



【グループでの交流】



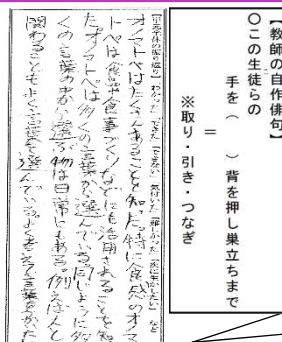
【ワークシート】

- 教材文に書かれている筆者の考えに戻り、活動を通して実感的に捉えられたことや分かったことを、自分の言葉でまとめる。

まとめる(1)

3. 単元を振り返る

- 単元全体を振り返り、学んだことをまとめたり自己の変容について自覚したりする。
- 本単元での学びを生かせる場面について、意見交流する。
- 今後に生かしたいことを自分の言葉でまとめる。



【教師の自作俵句】
○この生徒の「手」(一) 背を押し巣立ちまで ※取り・引き・つなぎ

指導のポイント

指導例：『食感のオノマトペ』（第1学年 第1時）

1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を設定する。

○「食感」や「オノマトペ」の意味を捉えたり、オノマトペの具体例を考えたりする。

T：「バリバリ」と「パリパリ」はどう使い分けているの？

S：硬い煎餅は「バ」、そんなに硬くない煎餅や食べ物は「パ」という感じがします。

S：「グニャッ」「ベッコヨッ」はまずそう。

T：（食品広告「外はカリッと・中はもちもち」を提示し）こういうオノマトペは何のために使われているのかな？

S：その物の様子を伝えたいから。オノマトペがあると分かりやすい。

S：おいしさを伝えてたくさん売りたいから。買ってほしいから。

- ・サクサク・もちもち
 - ・バリバリ・パリパリ
 - ・グニャッ・ベッコヨッ
 - など
- 【食感のオノマトペの例】
(板書より)

○教材文を通読し、筆者の考えが述べられている部分を見付ける。

T：筆者の考えはどこに、どのように書かれていたかな？

S：結論の最後の文です。

T：内容もよく理解できましたか？

S：何となくは分かるけれど、分からないところもある。

T：では、筆者の考えをよく理解できるような課題にしよう。

単元の課題 筆者の考えに対する理解を深めるために、「オノマトペ・テロップ」を考え、伝え合おう。

2 めあてをつかむ。

めあて 「オノマトペ・テロップ」の作り方を知ろう。

○「オノマトペ・テロップ」のモデルを見て、課題に対するイメージをもつ。



T：綿菓子の写真にどんな「オノマトペ・テロップ」を付けますか？

S：ふわふわとか、もこもこかな。

S：すぐ溶けるからジュワーがよい。

S：写真を見ての感じだから、それは違うんじゃない？

【オノマトペ・テロップのモデル】 T：いろいろ考えられそうだね。

3 学習の見通しをもつ。

<この単元の流れ>

- ①単元の課題把握
- ②文章の内容の整理
- ③「オノマトペ・テロップ」
- ④単元のまとめ

4 本時のまとめ・振り返りをする。

○単元の課題を全体で確認し、課題解決に対する意気込みを自分の言葉でまとめる。

☆自分が伝えたいことをオノマトペにして伝えるのは楽しそう。人に伝わるようなオノマトペ・テロップを作ってみよう。

☆筆者の考えを知って納得できるように頑張りたい。オノマトペの意味もちゃんと考えて選んでいきたい。

学習への興味・関心をもたせるための工夫

○題名に着目し、それに関わる具体的な事例を考えさせたり、教師が身近な例を資料として提示したりして、自分たちの生活と関わりが深い学習内容であることに気付かせる。

課題設定の工夫

○説明文の構成等の既習事項を生かして、筆者の考えを見付けさせる。

○主体的に取り組めるように、筆者の考えに対する理解を深めていくことの必要性を感じさせてから、課題を示す。

○身に付けさせたい力をよく確認してから活動に取り組みせるようにする。

課題に対するイメージをもたせるためのモデル提示

○主たる言語活動のゴールをモデル提示し、今後の取組へのイメージをもたせる。

○感じたことを自由に発言させ、個人の捉え方には多様性があるということに気付かせる。

次時への意欲を高めさせるための振り返り

○学習に対する思いを言葉に表すことで、次時への意欲を高めさせる。

○言語活動に対する生徒の興味・関心高めながら、身に付けさせたい力を明確に捉えられるようにする。

指導のポイント

指導例：『食感のオノマトペ』（第1学年 第3時）

1 本時のめあてをつかむ。

○筆者の考えをより実感をもって捉えることができるようになるための学習であることをつかむ。

めあて 筆者の考えに対する理解を深めるために、「オノマトペ・テロップ」を考え、伝え合おう。

○教師が示すモデルを見て、活動のイメージをもつ。

【発表内容モデル】

- ・写真から伝わるイメージ
- ・選んだ二つのオノマトペが表している様子
- ・選んだ二つのオノマトペの違い
- ・二つのどちらが自分の感覚により近いのか、聞いている生徒への投げかけ

【オノマトペ・リスト】抜粋

- 【バシャバシャ】【パシャパシャ】【バシャンバシャン】【パシャンパシャン】【バシャーッ】【パシャーッ】【ザバーン】【ザバザバーッ】【ピチャピチャ】
- 【グツグツ】【クツクツ】【ポコポコ】【ボコボコ】【ゴボゴボ】【グラグラ】【ブクブク】【フツフツ】【ブクブク】

2 課題を追究するために個で考える。

○提示した写真や絵に合うオノマトペを二つ選び、理由などを考える。

- S：(象の水浴び)「ザバーン」は水をたくさんかけている感じ。「バシャー」は一気に勢いよくという感じがする。
- T：水の量や勢いの違いが感じられるんだね。
- S：(雷)「ピカッ」は一瞬光る感じで、「ピカッ」は一瞬だけではなく、強い感じもする。写真のどこを見るかによっても変わるなあ。

3 グループや学級で課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。



【オノマトペ・テロップ】



【聞き手としての意識を高める場の設定】

S：(風鈴)「チリン」は最初に軽く鳴った音の感じで、「チリンチリーン」は長音があり、音が響いて残っている感じがします。写真は風でたくさんの風鈴が揺れているので、音が響いている方が合っています。どうですか？

S：伝えたい様子がよく分かります。

S：(鍋の湯の沸騰) 勢いよく沸騰しているので、濁音のある「グツグツ」がよい。泡の出ている様子からは「ブクブク」がよい。みなさんはどちらがよいですか？

S：「グツグツ」は何かを煮込んでいる感じがするから「ブクブク」の方がよい。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

- ☆微妙に違うオノマトペは、自分の感覚を分かりやすく伝えてくれる。同じオノマトペでも人によって感じ方は違ったけれど、説明されると確かに伝わったから、筆者の考えに本当に納得できた。
- ☆オノマトペは一人一人の少し違う感覚を、分かりやすく人に伝えていくことが確かめられた。筆者の考えが前よりも実感できた。

見通しをもち、めあてに沿った活動にするための工夫

- 全体の場での発表の仕方をイメージできるように、教師がモデルを提示する。
- 個→グループ→全体という学習形態や活動の手順、時間配分を明示する。

課題について焦点化して思考させるための工夫

- 課題に対して自分の考えをもたせる際に、比較・検討や焦点化がしやすいように選択肢を提示する。
- 言葉の微妙な違いで与える印象が異なることを気付かせるために、その違いや選んだ理由等を自分の言葉でまとめさせる。

主体的・対話的な交流の場にするための工夫

- 自分たちの考えの根拠や妥当性についてより深く考えさせるために、選んだ二つの言葉を吟味し、順位付けをさせる。
- 全員が対話的な交流をすることができるように、発表者には聞いている生徒に話題を投げかけるなどの工夫をさせる。
- 主体的に発表を聞けるように、各自がどのように思うか、挙手や発言をさせる場面を設ける。

めあてに沿った振り返り

- 活動を通して、教材文に書かれている筆者の考えに対する理解が深まったり、実感をもって捉えたりすることができたかを振り返らせる。

指導のポイント

指導例：『食感のオノマトペ』（第1学年 第4時）

1 本時のめあてをつかむ。

○単元全体を振り返ることが本時のめあてであることをつかむ。

めあて 単元の学習を通して学んだことや、今後に生かせそうなことについて考えよう。

2 単元で学んだことを確認する。

○学習前と後での自己の変容について自覚する。

T：この学習を通して何が分かったかな？

S：日本語のオノマトペは豊富だということや、世代間で使い方などに相違があることが分かった。

S：実際にオノマトペ・テロップを作ったら、似ているオノマトペの微妙な違いがよく分かった。違ってもちゃんと様子が伝わり、筆者の考えを実感できた。

S：筆者の言うことが前より実感できた。オノマトペの微妙な感覚を知ることができ、みんなで納得することができたから。

3 学んだことを一般化して理解する。

○今後の自分と言葉との関わりについて考える。

T：食品広告のオノマトペはなぜこの言葉が選ばれたのかな？他の言葉ではだめなのかな？

S：その言葉が一番おいしさが伝わると考えたから。

S：他の言葉でもだめじゃないけど、それがよい、売れそうって選んだと思う。

T：「これだ」とこだわって選んだ言葉なんだね。先生も俳句を作ったとき、とても悩んで選びました。三つの言葉の違い（※）が分かるかな？

S：「取り」や「つなぎ」は一緒に歩く感じで、「引き」は先生が引っ張ってくれる感じがする。

T：そのとおりです。このようにみんなの生活

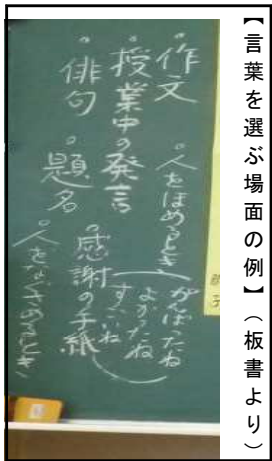
中で言葉を選ぶという場面はないかな？

S：友達を褒めるときに迷う。私は「頑張ったね」と言われるとうれしいけど、その子はどうだろう？とか考える。

S：慰めるときもそうかな？謝るときもかな？相手や状況によっては変えている。

T：国語の授業以外にもいろいろな場面があるんだね。

【教師の自作俳句】
この生徒らの
手を（ ）背を押し巣立ちまで
※取り・引き・つなぎ



【言葉を選ぶ場面の例】（板書より）

4 単元全体の振り返りをする。

○今後に生かしたいことを自分の言葉でまとめる。

☆オノマトペだけでなく、自分の伝えたいことが伝わる適切な言葉を選んでいきたい。作文やスピーチでも生かせると思う。

☆多くの言葉から一つを選ぶことは日常にもある。人と関わるときにも選んでいる。今までより、よく考えて言葉を使いたい。

身に付けさせたい力に関わる自己の変容の自覚化

○前時までの学習を通しての学びを振り返り、授業前より理解が深まったか、何をして深まったかななどを記述・発言させ、全体で共有する。

○筆者の考えを見付け、表面的に理解することと、実感として理解することの違いに気付かせるようにする。

学んだことを一般化するための工夫

○第1時に提示した資料に再度触れ、「なぜその言葉が選ばれたのか」を考えさせることで、言葉選びの大切さに気付かせる。

○教材文から離れ、言葉を吟味して選ぶことについてイメージさせるために、教師の体験を具体例として紹介する。

○学んだことと日常生活や他の教科とのつながりに気付かせ、意識化させる。さらに、活用できる場面を具体的にイメージし、全体で共有することで、学びの広がりを実感させる。

今後につながる単元全体の振り返り

○一般化したことを基に再度自分の言葉でまとめさせることで、学びを自覚させ、今後の自分の言葉の使い方に対する意識を高めさせる。

国語科学習指導案

平成30年10月 第1学年 指導者 見城 朋子

I 単元名 筆者の考えを捉えよう「食感のオノマトペ」

II 学習指導要領上の位置付け

(1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

【知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項ウ】

(2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

【思考力、判断力、表現力等 C読むことオ】

(3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

III 目標

言葉を吟味して選ぶ活動を通して、次の事項が身に付けられるようにする。

(1) オノマトペのもつ感覚を意識して言葉への理解を深めたり、語感を磨いたりすること。

【知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項ウ】

(2) 文章に書かれている筆者の考えを、より実感をもって捉えること。

【思考力、判断力、表現力等 C読むことオ】

(3) 日本語の豊富なオノマトペのよさに気づき、言葉の使い方を意識すること。

【学びに向かう力、人間性等】

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／4）

- ねらい 「食感のオノマトペ」を通読し、身近にあるオノマトペを意識させることで、課題について捉えたり興味をもったりすることができるようにする。
- 展開

| 学習活動（分） | ○：留意点 | 点線囲：評価 | ☆：振り返りの子供の意識 |
|---|-------|--------|--------------|
| 1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を設定する。（23分） | | | |
| ○「食感」や「オノマトペ」の意味を捉えたり、食感のオノマトペを用いた資料等を示したりすることで、教材への興味・関心をもたせる。 | | | |
| ○教材文を通読する。 | | | |
| ○文章に書いてあることを自分の実感として捉え、理解する力を身に付けていく学習であることを知らせる。 | | | |
| 単元の課題 筆者の考えに対する理解を深めるために、「オノマトペ・テロップ」を考え、伝え合おう。 | | | |
| <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> | | | |
| 2 めあてをつかむ。（15分） | | | |
| めあて 「オノマトペ・テロップ」の作り方を知ろう。 | | | |
| ○「オノマトペ・テロップ」がどのようなものであるかについてのモデルを提示し、課題に対するイメージをもたせる。 | | | |
| ○モデル提示した資料に、どのようなオノマトペを付けたいかなどを交流させる。 | | | |
| 食感のオノマトペが身近に使われていることに気付いたり、自分の感じ方について考えを述べたりしている。＜発言・観察（3）＞ | | | |
| 3 学習の見通しをもつ。（7分） | | | |
| ○どのような学習が必要であるか主体的に考えさせ、学習の見通しをもたせる。 | | | |
| 4 本時のまとめ・振り返りをする。（5分） | | | |
| ○単元の課題を全体で確認し、課題に対する自身の捉え等を記述・発言するよう促す。 | | | |
| ☆説明文で勉強したことを生かしながら内容を読み取り、筆者が言いたいことは何かを考えていきたい。 | | | |
| ☆筆者の考えをよく理解することがめあてだと分かった。 | | | |
| ☆まだよくイメージできないけれど、オノマトペ・テロップを考えるのはおもしろそうだ。めあてを達成できるように頑張りたい。 | | | |

V 本時の展開（3／4）

1 ねらい 提示した写真や絵に合うオノマトペを考える活動を通して、筆者の考えをより実感的に捉えることができるようにする。

2 展開

| 学習活動（分） | ○：留意点 | 点線囲：評価 | ☆：振り返りの子供の意識 |
|--|--|--------|--------------|
| 1 本時のめあてをつかむ。（7分） | ○本時の学習活動は、筆者の考えをより実感をもって捉えることができるようにするためのものであることを押さえる。 | | |
| | めあて 筆者の考えに対する理解を深めるために、「オノマトペ・テロップ」を考え、伝え合おう。 | | |
| | ○見通しをもって活動に取り組めるように、発表の仕方についてのモデルを提示したり、学習活動の手順や時間配分を明示したりする。 | | |
| 2 課題を追究するために個で考える。（6分） | ○提示した写真や絵に合うオノマトペを二つ選ぶ活動をすることで、人間の微妙な感覚の違いなどについて考えさせる。 | | |
| | ○必要に応じて選択の理由となる観点（量・速さ・大きさ・強さ・程度等）を示すことで、どの生徒も自分の考えを書くことができるようにする。 | | |
| 3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。（32分） | ○個で選んだオノマトペについてグループで交流することで、その違いや選んだ理由等をより明確にさせる。 | | |
| | ○全員が主体的に交流できるように、発表者には聞いている友達に話題を投げ掛けるなどの工夫を促す。 | | |
| | オノマトペの微妙な違いや、それらからイメージされる事象について考えたことを、発言したり記述したりしている。＜ワークシート・発言・観察（2）＞ | | |
| 4 本時のまとめ・振り返りをする。（5分） | ○本時の学習を通して学んだことを記述させ、発言するように促す。 | | |
| | ☆写真に合うオノマトペ・テロップを理由も考えて選べた。あまり意識していなかったけれど、比較してみるとオノマトペには微妙な違いがあって、その感覚を伝えることができるということがよく分かった。 | | |
| | ☆人によって選んだオノマトペが違うこともあるけれど、理由を聞くと納得でき、イメージがよく伝わった。実感をもって伝わるという筆者の考えが、授業前より実感できた。 | | |

V 本時の展開（4／4）

- ねらい 単元の学習を振り返る活動を通して学びを自覚させ、言葉の使い方に対する意識を高める。
- 展開

| 学習活動（分） | ○：留意点 | 点線囲：評価 | ☆：振り返りの子供の意識 |
|--|--|--------|--------------|
| 1 本時のめあてをつかむ。（5分） | ○単元全体を振り返ることが本時のめあてであることを伝える。 | | |
| めあて 単元の学習を通して学んだことや、今後に生かせそうなことについて考えよう。 | | | |
| 2 単元で学んだことを確認する。（18分） | ○本単元の学習で「何を学んだか」「何を通して何が分かったか」などについて全体で共有することで、学習前と後での自己の変容について自覚させる。 ☆「オノマトペ・テロップ」を考えると、人それぞれ微妙なところにこだわって、写真のイメージが伝わるように言葉を選んでいった。活動を通して筆者の考えに共感する気持ちが強くなった。 ☆初めは筆者はこういうことを言っているんだな、ということだけは分かったけれど、具体的にはよく分からなかった。自分たちで具体例を使って考えたことで、本当に筆者の言うとおりのんだな、と実感できた。 | | |
| 3 学んだことを一般化して理解する。（20分） | ○第1時に扱った資料を再提示することで、そのオノマトペが多くの言葉から吟味され選ばれていることに気付かせる。 ○言葉を吟味して選ぶ場面を考えることで、今後の自分と言葉との関わりに気付かせる。 | | |
| 学んだことを自覚し、今後に生かせそうな場面について考えている。 <ワークシート・発言・観察（3）> | | | |
| 4 単元全体の振り返りをする。（7分） | ○単元全体で学んだことや今後に生かしたいことを自分の言葉でまとめることで、言葉を意識的に使っていかうとする意欲を高めさせる。 ☆写真に合わせて、オノマトペの微妙な違いを考えて選んだら、友達にも様子がよく伝わった。普段はあまり意識しないで使っているけれど、これからはもっとよく考えて言葉を選んで使っていきたい。 ☆オノマトペ以外にも、どの言葉を使ったら自分の伝えたいことが相手に伝わるかをよく考えることが大切だと思った。作文を書くときやスピーチをするときにも生かしていきたい。 | | |

指導計画 中学校国語科 第1学年 単元名 筆者の考えを捉えよう「食感のオノマトペ」(全4時間計画)

| | | | |
|------|---|--|---|
| 目標 | <p>言葉を吟味して選ぶ活動を通して、次の事項が身に付けられるようにする。</p> <p>(1) オノマトペのもつ感覚を意識して言葉への理解を深めたり、語感を磨いたりすること。 【知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方に関する事項ウ】</p> <p>(2) 文章に書かれている筆者の考えを、より実感をもって捉えること。 【思考力、判断力、表現力等 C読むことオ】</p> <p>(3) 日本語の豊富なオノマトペのよさに気づき、言葉の使い方を意識すること。 【学びに向かう力、人間性等】</p> | | |
| 評価規準 | <p>(1) 言葉に対する感じ方や言葉の使い方の違いへの理解を深めたり、語感を磨いたりしている。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)】</p> <p>(2) 文章に書かれていることを実感的に理解し、自分の考えを言葉に表している。 【C読むことオ】</p> <p>(3) 言葉がもつ価値に気づき、より適切な言葉を選び使おうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】</p> | | |
| 過程 | 時間 | ☆振り返り(意識) | ◇評価項目 <方法(観点)> |
| つかむ | <p>1</p> <p>○「食感のオノマトペ」を通読し、身近にあるオノマトペを意識させることで、課題について捉えたり興味をもったりすることができるようにする。</p> <p>筆者の考えに対する理解を深めるために、「オノマトペ・テロップ」を考え、伝え合おう。</p> <p>「オノマトペ・テロップ」の作り方を知ろう。</p> | <p>☆説明文で勉強したことを生かしながら内容を読み取り、筆者が言いたいことは何かを考えていきたい。</p> <p>☆筆者の考えをよく理解することがめあてだと分かった。</p> <p>☆まだよくイメージできないけれど、オノマトペ・テロップを考えるのはおもしろそうだ。めあてを達成できるように頑張りたい。</p> | <p>◇食感のオノマトペが身近に使われていることに気付いたり、自分の感じ方について考えを述べたりしている。</p> <p><発言・観察(3)></p> |
| 追究する | <p>1</p> <p>○文章に書かれている事例等を整理する活動を通して、食感のオノマトペのもつ感覚を意識したり、文章の全体像を捉えたりできるようにする。</p> <p>文章に書かれている事例等を整理して、内容を捉えよう。</p> | <p>☆食感を表す日本語のオノマトペはたくさんあり、世代間で使われ方に差がある。</p> <p>☆食感のオノマトペがないとうまく表現できない。オノマトペは大事だと思った。</p> <p>☆筆者の考えで分からないところもあるから、内容をよく確かめたい。</p> | <p>◇食感のオノマトペのもつ感覚を意識したり、文章の全体像を捉えたりしている。</p> <p><ワークシート・発言・観察(1)></p> |
| まとめる | <p>1</p> <p>○単元の学習を振り返る活動を通して、学びを自覚させ、言葉の使い方に対する意識を高める。</p> <p>単元の学習を通して学んだことや、今後に生かせることについて考えよう。</p> | <p>☆写真に合わせて、オノマトペの微妙な違いを考えて選んだら、友達にも様子がよく伝わった。普段はあまり意識しないで使っているけれど、これからはもっとよく考えて言葉を選んで使っていきたい。</p> <p>☆オノマトペ以外にも、どの言葉を使ったら自分の伝えたいことが相手に伝わるかをよく考えることが大切だと思った。作文を書くときやスピーチをするときにも生かしていきたい。</p> | <p>◇学んだことを自覚し、今後に生かせる場面について考えている。</p> <p><ワークシート・発言・観察(3)></p> |